

郷土愛に燃える市民とともに、明日の市勢指針となり、質量ともに、豊かな住みよい都市を、建設しようとするよすがとなれば、これに過ぎるよろこびはないと存じます。

本書出版にあたり、執筆の労をとられた編集委員ならびに、本書作成に御協力下さった各位に対し、深甚なる謝意を捧げる次第であります。

昭和三七年八月三十一日

松山市長 黒田政一

目次

第一編 松山市の自然環境

第一章 位置と地形

一 松山市の位置……………三
二 地形と地質……………五

第二章 道後温泉と鉱泉

一四

第三章 水系と海岸

一九

一 重信川および石手川の治水と流路の変遷……………一九
二 最近の電探による松山市の地下水……………三
三 海岸と海底地形……………四

第四章 気候と天災

二七

一 松山市の天候……………二七
二 松山の天災……………三〇

第二編 市制実施までの松山

第一章 古代から中世へ

- 一 原始・古代……………三五
- 1 原始時代の松山平野(三五)……………2 伊予・久米国とその部民(三七)……………3 古墳文化(三九)……………4 神社と祭神(四〇)……………5 聖徳太子と道後(四二)……………6 温泉・久米・伊予各郡の成立(四三)……………7 伊予風土記に現われた天山と道後(四五)……………8 荘園(四七)
- 二 中世……………四九

第二章 藩政時代

- 一 松山築城と藩政の変遷……………五九
- 1 加藤嘉明の湯山川改修(五九)……………2 勝山築城(六一)……………3 蒲生忠知の治世(六三)……………4 松平定行の松山入部と松山城大改修(六四)……………5 三津の魚市と伊佐爾波神社(六六)……………6 松平定直と松山文化の勃興(六六)……………7 石手川の大改修と享保の大飢饉(六八)……………8 久万山農民騒動と藩政の変動(七〇)……………9 古学・古文辞学派の隆盛(七二)……………10 松山城天守閣の焼失と俳壇の黄金後代(七三)……………11 松平定通の藩政改革(七四)……………12 松山城復興事業の完成(七六)……………13 幕末の松山藩と長州征伐(七七)……………14 明治維新と松山藩(七八)
- 二 松山城下町の発達……………六〇

第三章 明治維新後の松山

- 一 明治維新から愛媛県成立まで……………三七
- 1 城下町の建設(八〇)……………2 城下町の景観とその変遷(八四)……………3 道路・橋・港湾と交通(九四)……………4 商工業の情況(寺院・医師(一〇〇)……………5 町方支配と自治体制(一〇七)……………6 警防組織と施設(一一一)……………7 町人の負担(一一七)……………8 町人生活の統制(一二三)
- 二 地方自治制の整備と松山……………四一
- 1 愛媛県の発足と松山(一四一)……………2 地方自治の刷新と大・小区制(一四四)……………3 自由民権運動と地方民会(一五〇)
- 三 諸政の一新と時代相……………四四
- 1 諸政一新と近代社会の形成(一五四)……………2 明治初期の時代相と松山(一五七)

第三編 市制実施から大松山市へ

第一章 市域の拡大と人口動態

- 一 市制・町村制の施行……………一六三
- 二 松山市の誕生……………一六五
- 1 市制実施まで(一六五)……………2 市制の実施(一六六)
- 三 松山周辺の町村制実施……………一六九
- 1 町村の統合(一六九)……………2 その後の変動(一七二)

四 明治・大正期の市域拡大	一七三
1 明治四二年の合併(一七二)……2 大正一二年の合併(一七四)……3 大正一五年の合併(一七四)	
五 昭和前期の松山市と周辺	一七六
1 昭和五年の町名改正(一七六)……2 昭和一五年の合併(一七八)……3 昭和一九年の合併(一八〇)……4 道後分離問題(一八四)	
六 町村合併促進法の施行と松山市	一八四
1 町村合併促進法の施行(一八四)……2 興居島村・余土村の合併(一八五)……3 湯山・五明・伊合・久米の合併(一八六)……4 浮穴村・小野村・石井村の合併(一八九)	
第二章 市勢の変遷	一九二
一 歴代市長と市政	一九二
1 木村利武市長の時代(一九二)……2 白川福儀市長の時代(一九四)……3 浅野長道市長の時代(一九五)……4 長井政光市長の時代(一九七)……5 加藤恒忠市長の時代(二〇二)……6 岩崎一高市長の時代(二〇二)……7 御手洗忠孝市長の時代(二〇四)……8 香川熊太郎市長の時代(二〇六)……9 白石大蔵市長の時代(二〇七)……10 井上久吉市長の時代(二〇七)……11 清水勇三郎市長の時代(二〇九)……12 越智孝平市長の時代(二一〇)……13 黒田政一市長の時代(二一一)……14 公選安井雅一市長の時代(二一一)……15 公選黒田政一市長の時代(二一四)……16 公選黒田政一市長の時代(二二六)……17 公選黒田政一市長の時代(二二八)	
二 市議会の動き	三三〇
1 市制実施当時の市会(三三〇)……2 明治二九〜大正一年の市会(三三二)……3 大正二〜昭和一年までの市会(三三五)……4 昭和二〜二〇年までの市会(三三八)……5 復興と建設の松山市議会(三三一)	
三 財政の膨張	三四三
1 戦前の財政の概況(二四三)……2 戦後の財政の概況(二五〇)……3 赤字の発生から財政再建の着手へ(二五四)……4 再建団体指定から赤字の克服へ(二五九)	
四 行政の発展	三六五
1 機構(二六五)……2 議決機関(二六八)……3 広報委員と広報活動(二六九)……4 組織制度の変遷(二七二)……5 職員数の変遷(二七七)……6 事務改善(二八二)……7 庁舎(二八三)	

第三章 産業経済の発展

一 農 業	二八五
1 土地利用の変貌と経営規模(二八五)……2 米麦品種の改良と栽培技術の近代化(二八九)……3 梨・桃・苹果・葡萄・無花果の栽培の盛衰(二九二)……4 柑橘・枇杷栽培の躍進(二九五)……5 伊予柑の特産地(二九八)……6 新興の石垣母栽培(二九九)……7 蔬菜栽培(三〇〇)……8 農業指導機関の充実(三〇一)	
二 牧 畜 業	三〇一
三 林 業	三〇三
四 水 産 業	三〇三
1 松山市水産業の概要(三〇三)……2 松山市の水産行政の概要(三〇五)	
五 鉱 業	三〇六
六 工 業	三〇七
1 在来の工業(三〇七)……2 主な工場と会社(三〇八)	
七 商 業	三一一
八 金融と物価	三三三
第四章交通・通信機関の発達	三三八
一 道 路	三三八

二 鉄道	三三
三 バス	三三
四 海運	三三〇
五 航空	三三四
六 郵便	三三四
七 電信電話	三三六

第五章 港湾と工場地帯

一 明治期の三津浜港・高浜港	三三九
1 明治初期の三津浜港・高浜港(三三九)……2 高浜開港と三津築港問題(三四二)	
二 大正・昭和期の松山港	三四七
1 大正初期から昭和一年までの三津浜港(三四七)……2 昭和二年から終戦時までの外港建設(三五三)……3 戦後の松山港とその発展(三五七)	
三 工場地帯	三六一

第六章 戦災と復興と都市計画

一 戦災と復興	三六九
1 二次大戦末期の状態と本土空襲(三六九)……2 松山市の空襲と被害状況(三七〇)……3 終戦と復興事業の進展(三七三)	
二 都市計画	三七八
1 松山市都市計画の基本方針(三七八)……2 土地利用(用途地域)計画(三八〇)……3 主要施設配置計画(三八五)……4 交通計画(三九〇)……5 防災計画(三九三)……6 再開発計画(三九四)……7 その他の関連諸計画(三九九)	

第七章 教育文化の発展

一 教育制度の整備と発達	三九六
1 学制頒布と松山の教育(三九六)……2 教育令前後の普通教育(三九八)……3 市街地周辺の庶民教育(四〇二)……4 学校令の実施と初等教育(四〇三)……5 市制実施と市立小学校(四〇六)……6 教育諸施設の普及と整備(四〇八)……7 戦争下の松山と教育(四一五)	
二 新教育体制下の松山	四二七
1 終戦と米占領下の日本教育(四二七)……2 戦災学校の復興と新制中学の発足(四二九)……3 高校・大学そのほかの施設(四二二)……4 社会教育の発展と教育委員会(四二四)	
三 新聞・出版・放送	四二七
1 新聞(四二七)……2 出版(四三二)……3 放送(四三三)	

第八章 治安・民生および保健衛生・公共施設・市営事業

一 治安	四三七
1 警察(四三七)……2 自衛隊(四三九)……3 消防(四三九)	
二 民生	四四二
1 社会福祉事業と社会施設(四四二)……2 児童福祉と補導育成(四四五)……3 戦争犠牲者援護(四四七)……4 法外援護(四四八)……5 国民健康保健と年金(四四九)	
三 保健衛生	四五〇
1 伝染病と結核対策(四五〇)……2 環境衛生(四五二)……3 保健と医療機関(四五四)	
四 公共施設・市営事業	四五七
1 下水道(四五七)……2 上水道(四五八)……3 工業用水道(四六〇)……4 魚市場(四六一)……	

第九章 市民生活の変遷

5 競輪(四六二)……………6 ロープウェイ(四六二)

一 美術工芸……………四六三

1 書画(四六三)……………2 建築(四六八)……………3 彫刻・工芸・陶芸・竹製品(四六九)

二 文 学……………四七一

1 古代から近世(四七一)……………2 明治前期(四七三)……………3 明治中期(四七四)……………4 明治後期・大正期(四七九)……………5 昭和前期(四八二)……………6 終戦後(四八三)……………7 来遊の文学者(四八五)

三 方 言……………四八六

四 伝 説……………四九四

1 木の伝説(四九四)……………2 石の伝説(四九四)……………3 水の伝説(四九五)……………4 塚・墓の伝説(四九六)……………5 地名・道筋などの伝説(四九七)……………6 祠堂の伝説(四九八)……………7 松山七不思議(四九九)

五 民謡・芸能……………五〇〇

六 まつりと行事……………五〇八

1 正月の行事(五〇八)……………2 春から夏の行事(五一〇)……………3 盆の行事(五一四)……………4 秋から冬の行事(五一五)

七 宗 教……………五一九

八 趣味娯楽……………五二七

九 スポーツ……………五三四

第一〇章 国際観光温泉文化都市……………五四三

一 道後温泉……………五四三

二 文化財……………五五四

1 国宝(五五四)……………2 重要無形文化財(五五七)……………3 重要文化財(五五七)……………4 有形文化財(五六五)……………5 史跡(五六六)……………6 天然記念物(五七一)

三 観光施設……………五七二

1 公園(五七二)……………2 温泉(五七四)

四 句碑と歌碑……………五七六

第一章 兵 事……………五八〇

一 兵事制度の変遷と松山……………五八〇

1 松山藩の兵制と軍役(五八〇)……………2 徴兵制の実施と西南戦争(五八二)……………3 歩兵第二連隊と松山兵營(五八四)

二 日清・日露の参戦と松山……………五八六

1 日清戦争と松山連隊の出征(五八六)……………2 日露の開戦と郷土部隊の活躍(五八八)……………3 戦争と松山における俘虜(五九三)

三 第一、第二次世界大戦と松山……………五九六

1 第一次世界大戦とシベリヤ出兵(五九六)……………2 満州事変・中日戦争から大太平洋戦争へ(五九八)

人物・年表

人物目次……………六〇三

人物伝……………六〇七

歴代松山市長……………六〇六

歴代松山市助役・収入役……………六〇六

歴代松山市議会議長・副議長……………六〇七

松山市議会(市会)各期議員一覧……………六〇七

松山市年表……………六五三

写 真 図 版

35	金子 信一(朝美村長)	一七四
36	村丸 寿平(桑原村長)	一七六
37	五百木 績(味生村長)	一七六
38	西村竹五郎(久枝村長)	一七六
39	黒田 政一(三津浜町長)	一七六
40	三津 浜港	一七九
41	門屋 富一(潮見村長)	一八〇
42	藤井都次郎(和気村長)	一八〇
43	門屋 文一(堀江村長)	一八〇
44	松山市域の發展図	一八〇
45	近藤 新一(道後湯之町長)	一八一
46	竹内利三郎(生石村長)	一八一
47	中矢近太郎(垣生村長)	一八一
48	道後温泉街	一八三
49	三喜長太郎(興居島村長)	一八五
50	森 千枝松(余土村長)	一八六
51	宮本与三郎(湯山村長)	一八七
52	沢田 稻衛(伊台村長)	一八七
53	竹田 貞之(五明村長)	一八八
54	岸 良夫(久米村長)	一八八

55	武井彦太郎(浮穴村長)	一八九
56	宮内順市郎(小野村長)	一九〇
57	小野村閉村式	一九〇
58	今村 高義(石井村長)	一九一
59	木村 利武(初代市長)	一九三
60	白川 福儀(二代市長)	一九四
61	浅野 長道(三代市長)	一九六
62	長井 政光(四代市長)	一九六
63	松山市章	一九九
64	加藤 恒忠(五代市長)	二〇一
65	岩崎 一高(六代市長)	二〇三
66	御手洗忠孝(七代市長)	二〇四
67	香川熊太郎(八代市長)	二〇六
68	白石 大藏(九代市長)	二〇七
69	井上 久吉(〇代市長)	二〇八
70	清水勇三郎(二代市長)	二〇九
71	越智 孝平(三代市長)	二一〇
72	黒田 政一(三代市長)	二一一
73	安井 雅一(四代市長)	二一三
74	黒田 政一(五代市長)	二一五
75	小林 信近(市會議長)	二二〇

1	松山城から市街南西部遠望	四
2	松山城山・道後・御幸寺山の地形	六
3	松山南部天山・星ノ岡・椿神社地形	八
4	三津浜大可賀の地形	九
5	興居島・釣島と太山寺丘	二
6	吉田浜の砂丘、石手川・重信川合流点	三
7	道後温泉本館	五
8	地下水の水比抵抗等値線図	三
9	デラ台風新聞記事	三
10	彌生式土器	七
11	須 恵 器	〇
12	天山の遠望	〇
13	河野通有像	〇
14	湯築城古図	四
15	加藤嘉明像	五
16	蒲生忠知像	三
17	伊予八藩領域図	七

18	石手川	六
19	明 教 館	七
20	足立重信書状	八
21	松平定行の墓	九
22	新立橋古図	七
23	松山藩札	五
24	千 秋 寺	一〇
25	三津浜街道	二
26	明治初期の松山城	一六
27	松山県庁ふれ書	一七
28	石鉄県印	一三
29	岩村高俊と筆蹟	四
30	小林 信近	〇
31	明治中期の愛媛県庁	五
32	友沢豊三郎(雄郡村長)	七
33	関屋勇五郎(御幸村長)	四
34	伊賀 啓展(素鷲村長)	四

138	愛媛新聞社	三三一
137	日米文化センター	三三六
136	新築の御幸中学校	三四一
135	青年学校の軍事教練	三四六
134	森 盲天外	三四四
133	明治末期の松山中学校付近	三四〇
132	松山英学所と草間時福筆蹟	三三九
131	松山藩学校印	三三七
129	松山城小天守閣(焼失前)	三三五
128	城北の文教地区	三六六—三六七
127	現在の銀天街	三八三
126	戦前の大街道	三八三
125	戦災後のバラック	三七七
124	県庁付近の焼け跡	三七三
123	焦土と化した松山市街	三七二
122	防空訓練	三六九
121	鍵谷カナ胸像	三三八
120	松山臨海工場地帯	三六三
116	大松山港の現況と計画図	三三〇—三三一
98	中矢 勇	三三九
97	白方 義雄	三三八
96	吉井 保一	三三七
95	長谷川 迪	三三六
94	松垣 正之	三三五
93	芳野 恒英	三三五
92	正岡子規記念切手	三四四
91	昇田 栄	三四四
90	村上 綱一	三四三
89	大西 弘	三四三
88	門屋礼三郎	三四〇
87	野口 矯	三四〇
86	仙波保太郎	三三九
85	富田 嘉吉	三三七
84	井上 久吉	三三七
83	宇和川浜蔵	三三七
82	伴 政孝	三三六
81	添田芳三郎	三三六
80	窪田節二郎	三三五
79	天野義一郎	三三四
78	山本 盛信	三三三
77	松下 信光	三三三
76	井手 正光	三三二

118	井上 要	三四二
117	無線中斷マイクローエーブ	三三七
116	海の玄関高浜港	三三三
115	国鉄松山駅	三三五
114	伊予鉄古町駅	三三三
113	松山電車	三三三
112	蒸気車時代の道後駅	三三一
111	整備された松山駅前通り	三一九
110	重信川下流の放牧地	三〇三
109	東長戸町の石垣母栽培	二九九
108	三好保徳記念碑	二九八
107	柑橘園風景	二九七
106	昭和一二年落成の市庁舎	二八四
105	市役所執務風景	二八〇
104	「目で見る広報」団体見学	二七三
103	広報まつやまわかい芽	二七〇
102	松山市弘報創刊号	二七〇
101	昭和三七年一度一般会計当初予算	二六三
100	大正時代の松山市役所	二五五
99	松山市議会議場風景	二五一

158	新 栄 座	三五九
157	国宝大宝寺	三五三
156	秋祭り神輿の鉢合せ	五五六
155	伊予豆比古命神社の椿祭	五五九
154	伊予万才	五〇五
153	おいでや小唄楽譜	五〇三
152	松山城北高石垣	五〇〇
151	高浜 虚子	四八〇
150	河東碧梧桐	四七九
149	正岡子規らの記念写真	四六八
148	神之湯湯釜山部赤人の歌	四六三
147	才賀商会	四六九
146	伊佐爾波神社々殿	四六八
145	吉田蔵沢の竹の画	四六六
144	僧明月の筆蹟	四六三
143	銀天街付近の下水工事	四六〇
142	三津浜地区豪雨の惨害	四四九
141	松山市営住宅	四四五
140	梯子付消防ポンプ	四四一
139	松山放送会館	四三三

139	松山放送会館	四三三
138	松山港の現況と計画図	三三〇—三三一
137	日米文化センター	三三六
136	新築の御幸中学校	三四一
135	青年学校の軍事教練	三四六
134	森 盲天外	三四四
133	明治末期の松山中学校付近	三四〇
132	松山英学所と草間時福筆蹟	三三九
131	松山藩学校印	三三七
129	松山城小天守閣(焼失前)	三三五
128	城北の文教地区	三六六—三六七
127	現在の銀天街	三八三
126	戦前の大街道	三八三
125	戦災後のバラック	三七七
124	県庁付近の焼け跡	三七三
123	焦土と化した松山市街	三七二
122	防空訓練	三六九
121	鍵谷カナ胸像	三三八
120	松山臨海工場地帯	三六三
116	大松山港の現況と計画図	三三〇—三三一
98	中矢 勇	三三九
97	白方 義雄	三三八
96	吉井 保一	三三七
95	長谷川 迪	三三六
94	松垣 正之	三三五
93	芳野 恒英	三三五
92	正岡子規記念切手	三四四
91	昇田 栄	三四四
90	村上 綱一	三四三
89	大西 弘	三四三
88	門屋礼三郎	三四〇
87	野口 矯	三四〇
86	仙波保太郎	三三九
85	富田 嘉吉	三三七
84	井上 久吉	三三七
83	宇和川浜蔵	三三七
82	伴 政孝	三三六
81	添田芳三郎	三三六
80	窪田節二郎	三三五
79	天野義一郎	三三四
78	山本 盛信	三三三
77	松下 信光	三三三
76	井手 正光	三三二

第一編 松山市の自然環境

178	石手寺の仁王門	六五五
117	永津部隊の松山出發	五九八
176	山越のロンヤ兵墓地	五九四
175	高浜の凱旋歓迎	五九一
174	日露役出征松山連隊の凱旋	五八五
173	明治時代の松山兵營	五八四
172	「春や昔」の句碑	五七六
171	正宗寺内子規堂	五七〇
170	空也上人仏像	五七三
169	国宝太山寺本堂	五五五
168	道後新温泉	五五三
167	竹細工製品	五五二
166	みかんの採取	五五二
165	伊予 耕	五五一
164	全国優勝した松山東高チーム	五五一
163	堀之内総合運動場	五五〇
162	国体開会式臨場の両陛下	五四八
161	道後公園の自転車競争	五三三
160	世界館	五三〇
159	寿座	五二九
198	海南新聞題字	六六一
197	松山市域比較図	六〇四
196	藤野 政高	六〇五
195	鈴木 重遠	六〇五
194	来松した伊藤博文	六〇八
193	伊藤博文筆蹟	六〇八
192	伊予鉄道と松山電車	六〇九
191	市駅前 <small>の</small> 九層楼	六七〇
190	松山市域合併図	六七二
189	埋立てられた西堀端	六七二
188	中支から帰った永津部隊	六七四
187	三津浜町ほか六村合併図	六七五
186	道後湯之町ほか二村合併図	六七六
185	發展する松山市の海岸地帯と松山港	六七八
184	興居島・余土二村合併図	六七八
183	伊台・五明・湯山・久米各村合併図	六八九
182	柳原 極堂	六八〇
181	景浦 直孝	六八〇
180	西村 清雄	六八〇
179	浮穴・小野・石井三村合併図	六八一

人 物 目 次

宇都宮丹靖	潮見琢磨	井上 要	伊藤閑牛	井手真棹	井手正鄰	伊丹万作	石原 操	石崎平八郎	伊佐庭如矢	池内信嘉	五百木良三	天野方壺	天野義一郎	天岸静里	秋山真之	秋山好古
………	………	………	………	………	………	………	………	………	………	………	………	………	………	………	………	………
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
押川方義	奥平貞幹	奥平鶯居	奥島愛治郎	小川正孝	小川尚義	岡野久胤	岡田 温	大本貞太郎	大原其戎	大原觀山	大野侗吉	大西克礼	大西克知	宇和川浜藏	浦屋雲林	内海淡節
………	………	………	………	………	………	………	………	………	………	………	………	………	………	………	………	………
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
菅 菊太郎	河東碧梧桐	河東卓四郎	河東静溪	河東溶太郎	川島義之	川崎利吉	烏谷 章	加茂正雄	金子龜五郎	門田正經	加藤彰廉	勝田銀次郎	景浦 将	景浦直孝	越智侶一郎	押川春浪
………	………	………	………	………	………	………	………	………	………	………	………	………	………	………	………	………
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃

